

愛媛大学 社会共創学部 令和7年度 プロジェクト演習成果発表会

AIと共創する未来

～学生・教員へのアンケート・インタビュー調査～

社会共創学部 産業マネジメント学科 3回生
宇治郷来夢 伊藤元希 植村美咲妃 鎌田恵輔
谷合翼 松浦きらり

2026年2月4日(水)

目次

- 01** 研究・調査の背景（問題意識）・目的
- 02** 調査概要（全体像）：7つの調査
- 03** 大学生対象 アンケート・インタビュー調査
- 04** 海外（中国・スウェーデン）学生対象 インタビュー調査
- 05** 教員対象 アンケート・インタビュー調査
- 06** 海外教員（メキシコ）対象 インタビュー調査
- 07** 全体のまとめと考察・提案

References Acknowledgement

01 研究調査の背景（問題意識）・目的

「大学における生成AI利用の実態と課題を多面的に 調査し、大学での適切な利用方法を考察」

問題意識・背景

- ・ 生成AIの利用は大学生の学習に広く浸透している？
- ・ 生成AIは便利であるが、使い方に戸惑いや不安も多い

「ハルシネーション」「エコーチェンバー現象」[藤村, 2023]

「確率的オウム」[Bender, E.M. et al., 2021] 「思考力の低下」

プレ調査結果（2025.3実施 N=36） **利用率96.6%**

調査の目的

- ・ 生成AIを適切に利用するためにはどうすればよいのか？
- ・ 大学での適切な生成AIの活用方法や生成AIとの向き合い方とはどのようなもの

Q4 生成AIはどのくらいの頻度で利用していますか
34件の回答



02 調査概要（全体像）：7つの調査

大学生対象

学生アンケート

+ フォローアップインタビュー

中国人学生インタビュー



スウェーデン人学生インタビュー



教員アンケート

教員インタビュー

メキシコ人教員インタビュー



大学教員対象

03 大学生対象アンケート・インタビュー調査 大学生の生成AI利用実態

アンケート調査 N=702

実施 2025年6-7月

フォローアップインタビュー調査

フォローアップインタビュー 8-9月

性別	男性	379	53.99%	女性	305	43.45%
	回答しない	18	2.56%			
学年	1回生	162	23.08%	2回生	185	26.35%
	3回生	244	34.76%	4回生以上	91	12.96%
	大学院生	20	2.85%			
居住地	愛媛県	396	56.41%	富山県	83	11.82%
	東京都	76	10.83%	神奈川県	33	4.70%
	広島県	16	2.28%	埼玉県	13	1.85%
	千葉県	12	1.71%	石川県	9	1.28%
	その他	64	9.12%			
文・理	文系	471	67.09%	文理融合	90	12.82%
	理系	141	20.09%			

ID	性別	年代	現在の居住地	文理
1	女性	20	北海道	理系
2	男性	20	愛媛	文系
3	女性	20	愛媛	文系
4	女性	20	愛媛	文系
5	男性	20	愛媛	文系
6	男性	20	愛媛	文系
7	女性	20	愛媛	理系
8	女性	20	愛媛	理系
9	男性	20	香川	理系
10	男性	20	東京	理系
11	男性	20	高知	文系
12	すべて非公開希望			

大学生の生成AI利用実態

- 生成AIの使用率 92.74% 有料版の利用率 9.68%
- 最も使われているのは ChatGPT 98.62%
- 大学でのAI利用に関する規定への認識
 - 「規定があることを知っているが、内容はあまり詳しくは知らずに利用している」 35.47%
 - 「大学が定める規定を理解してそれに基づいて利用している」 16.38%

大学生の生成AI利用実態

生成AIの主な利用目的 n=588

利用目的	件数	割合
レポートや課題に取り組む場合の情報収集	439	74.66%
レポートや論文などの下書き作成	163	27.22%
参考文献の内容要約	159	27.04%
会話をして遊ぶ	153	26.02%
個人的な趣味や興味のための情報収集	150	25.51%
翻訳や他言語でのコミュニケーション	102	17.35%
就職活動(業界研究やES作成の参考)	89	15.14%
画像や音楽, 映像の作成	61	10.37%
プログラミング学習	26	4.42%
アルバイト先での業務	11	1.87%
AIそのものの開発、コーディング	8	1.36%
サークルや部活などでの活動の支援	6	1.02%
その他	23	3.91%

大学生の生成AI利用実態

(有料、無料を問わず)大学生活において生成AIを利用して役に立った、便利であると感じたこと(複数回答可)

n=651

	件数	割合
課題やレポート、論文を作成する際の情報収集にかかる時間の短縮	471	72.35%
明確な答えがあると思われる課題での学習(数学、計算の問題など)	261	40.09%
要約作成による参考文献を読む時間の短縮	184	28.26%
明確な答えがないと思われる課題での学習(自身の見解を述べる、多様な意見が可能な課題など)	168	25.81%
文章の校閲、文章の要約などの文章作成支援	153	23.50%
人に相談しにくいことや話しにくいことへの相談	127	19.51%
就職活動やインターンシップなどで必要な資料作成や情報収集	71	10.91%
語学学習、多言語の習得	68	10.45%
レポートや論文のテーマやタイトル案の指示	48	7.37%
プログラミング学習、AIの開発、コーディング	41	6.30%
特にない、わからない	20	3.07%
その他(自由記述)	6	0.92%

大学生の生成AI利用実態

(有料、無料を問わず)大学生活において、生成AIを利用して不便だった、不安になったこと (複数回答可)

n=651

不便さ・不安	件数	割合
自分が求めていた回答と異なっていたり、提供された回答の正確性に疑問があること	459	70.51%
生成AIの回答回数や回答文字数に制限があること	218	33.49%
同じ質問をしても異なった回答をされ、不安になること	181	27.80%
知らないうちに自分で考える力が低下していると不安に思うこと	179	27.50%
自分が間違った情報や答えを信じてしまっているのではないかと疑問に思うこと	146	22.43%
他の人の成果や提出物と内容が似ている可能性が高いと思うこと	130	19.97%
自分の情報漏洩や個人情報流出するのではないかと不安に思うこと	82	12.60%
AIによる回答内容が難しく、自分が理解できない、判断できないこと(数学、計算問題、用語理解など)	48	7.37%
AIが学習していないデータではないかと疑問があること	34	5.22%
特にない、わからない	34	5.22%
自分の能力では 生成AIを使いこなせていないのではないかとと思うこと	32	4.92%
有料版生成AIを使う人とそうでない人で成績に差が出るのではないかとと思うこと	9	1.38%
その他(自由記述)	7	1.08%



- ・ 利用する生成AI : DeepSeek 豆包 (ドウバオ) 中国国産モデルの生成AI
- ・ 言語学習における語彙調査や歴史的事実の確認、文章要約、計算式の解法確認など、いわゆる「情報の整理・抽出」や「定型的な補助」において生成AIの有効性を高く評価
- ・ 人間関係の悩みではなく、自分を鼓舞したり冷静さを取り戻したりするための「メンタルケア」の対話相手として活用
→ AIを「答えを出す主体」ではなく、自らの学習や精神状態を支える「助手」として位置づけ
- ・ AIの「でたらめな情報を鵜呑み」にすることや、「存在しない著者や文献（偽データ）」を提示されることに対する強い懸念、常に情報の真偽を疑う姿勢
→ 過度な利用によって「自分の思考力が弱くなる」状況やAIチェッカーを回避するためだけに腐心することは、自己の成長を妨げるリスクとして認識

04 海外（中国・スウェーデン）学生対象 インタビュー調査



大学生対象

学生アンケート
＋フォローアップインタビュー

スウェーデン人学生インタビュー

2025年12月



スウェーデン人学生インタビュー



大学生の生成AI利用についてどのように思いますか

「全ての学生がAIの正しい使い方を学ぶべき。スウェーデンでは**子供の頃から情報の正確性についてかなり学びます**。特に自然科学や社会科学の分野では、情報の裏付けを取る訓練を受けます。」（SS1）

「私は基本的にAIが必要と思う前に、助けを求めるのが好きではなく、そして、AIに依存したくないと思っている。なぜなら、**私は自分の知性や能力に誇りを持っている**から。もし、全てにおいてAIを即座に使うなら、それは賢いのではなく愚かだと思う。」（SS2）

スウェーデン人学生インタビュー



大学生の生成AI利用についてどのように思いますか

「AIはツールであり、使い方次第だと思う。人生で大人になる過程において、大学生は責任を取らなければならない時期。だから、**批判的にAIを使うことは責任ある人間になるためにやらなければならないことの一つである**。そのためにお互いを信頼し、適切に活用することが大切だと思う。」（SS3）

スウェーデン人学生インタビュー



Q 生成AIに関して、大学が行う対応としてこういったことが望ましいと考えますか？

「大学はAIがどのように動いているのか、何が得意で何が苦手なのか、学生にきちんと教えるべき。大学がそれを具体的に示すことが出来れば、学生はより責任をもってAIを使えるようになると思う。また、**大学の教授は、学生に「誇り」を持たせるべき**だと思う。一部の学生は、学位を「良い仕事に就くための証明書」としか見ていない。しかし、**本来は、「自分が賢くなった」「本当に学んだ」という誇りを感じられるべき**だ。」 (SS2)

日本と海外（中国・スウェーデン）学生の回答比較

- ・ 主に利用している生成AIの違い

日本、スウェーデン: ChatGPT、Gemini、Copilotなど

中国: 豆包、DeepSeekなど

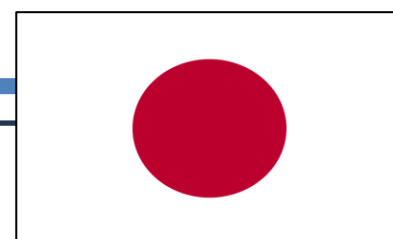
- ・ 用途別の生成AIに対する考え方の違い

日本人学生よりも海外の学生の方が、使用に適した場面、使用に不適切な場面の線引きが明確であり、自らの責任や利用のリスクを理解している傾向

まとめと考察（大学生の生成AI活用）

- ・多くの学生が生成AIに対して利便性を感じている一方、不安、不便さも同時に認識
- ・生成AIの使い方は十人十色であり、人間の学習能力向上の一助となっている使い方もあるれば、人間の能力を下げることになりかねないような使い方もある
- ・AIを禁止するよりも、**正しく活用する力=AIリテラシーを育てる教育**が重要
- ・学生自身が目的を意識し、**AIを「答えをもらうため」ではなく「自分の考えを深めるための道具」として使う姿勢**が求められるのではないかと
- ・すべての場面に対して生成AIを使うのではなく、**使用に適切・不適切な場面を見極めながら使っていく能力を養っていく**必要があるのではないかと

05 教員対象 アンケート・インタビュー調査



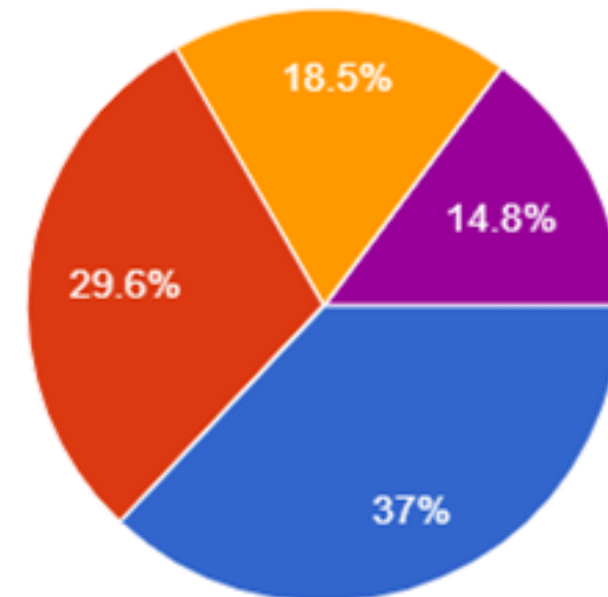
教員アンケート

教員インタビュー

大学教員対象

大学教員の生成AI利用実態

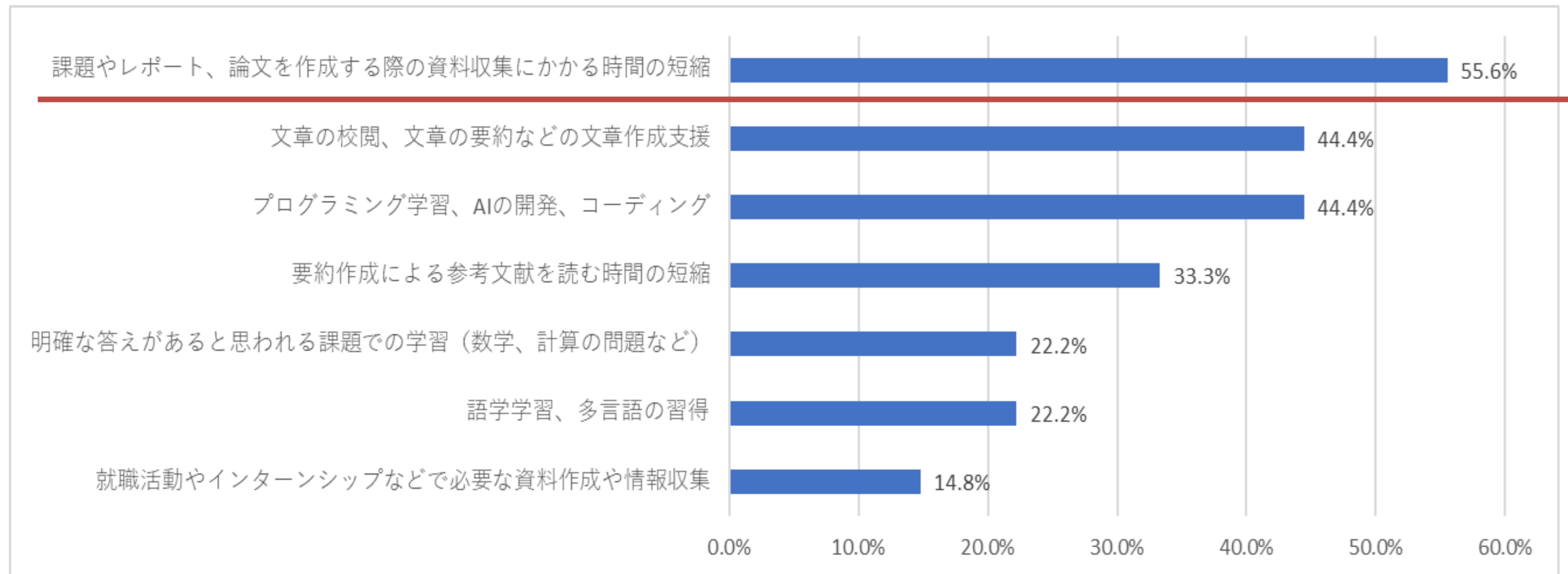
- 生成AIの使用率 96.3% 有料版のみの利用率 42.3%
- 最も使われているのは ChatGPT 93.3% (無料版のみを利用している教員)
有料版 ChatGPT Plus/Pro 72.7%
- 授業での生成AI利用の位置づけ 許可、一部許可している 66.7%



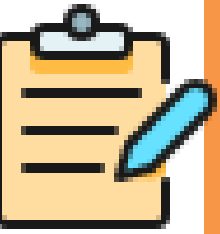
- 許可あるいは積極的に推奨している B-2へ
- 一部の授業のみ、あるいは条件付きで許可あるいは推奨している B-2へ
- 利用は禁止していないが、未検討 B-3へ
- 明確に利用を禁止している B-3へ
- 特に方針を決めていない B-3へ

大学生が生成AIを利用して役に立つ、便利であると感じたこととして該当するものは何ですか？（複数回答可 上位3つまで選んでください）

1位 課題やレポート、論文を作成する際の資料収集にかかる時間の短縮



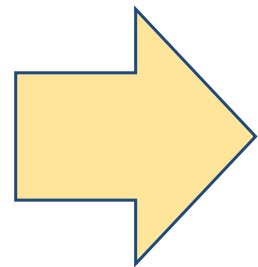
上記回答に関連して、具体的にどのような場合に学生に役に立っていることや便利であることを実感したかをお教えてください。（任意、自由記述）



生成AIに対して、何がわからないかを伝えると、**学生に合わせて柔軟に教えてくれる**ところ(文理融合・総合系・学際系)



情報収集の第一歩としては有効であると考えています。(文理融合・社会科学)



学生の学習状況や理解度に応じて柔軟に教えてくれるという意見が多くみられ、学生一人一人に寄り添う教師としての生成AIは有用という考え
プログラミングや情報収集も、教育において生成AIを取り入れるメリットとして評価

上記回答に関連して、具体的にどのような場合に学生に役に立っていることや便利であることを実感したかをお教えてください。（任意、自由記述）



何度も生成AIと対話することで、一度きりの検討だけで終わらない、PPDACサイクルを意識した課題発見/解決の体験がしやすくなっている。また、プログラミングにある程度習熟している学生にとって、コード最適化などが可視化されることで、より実用性の高いプログラミングが可能になること。(理系・自然科学)

PPDACサイクルとは？

P・・・(problem、問題)

P・・・(plan、計画)

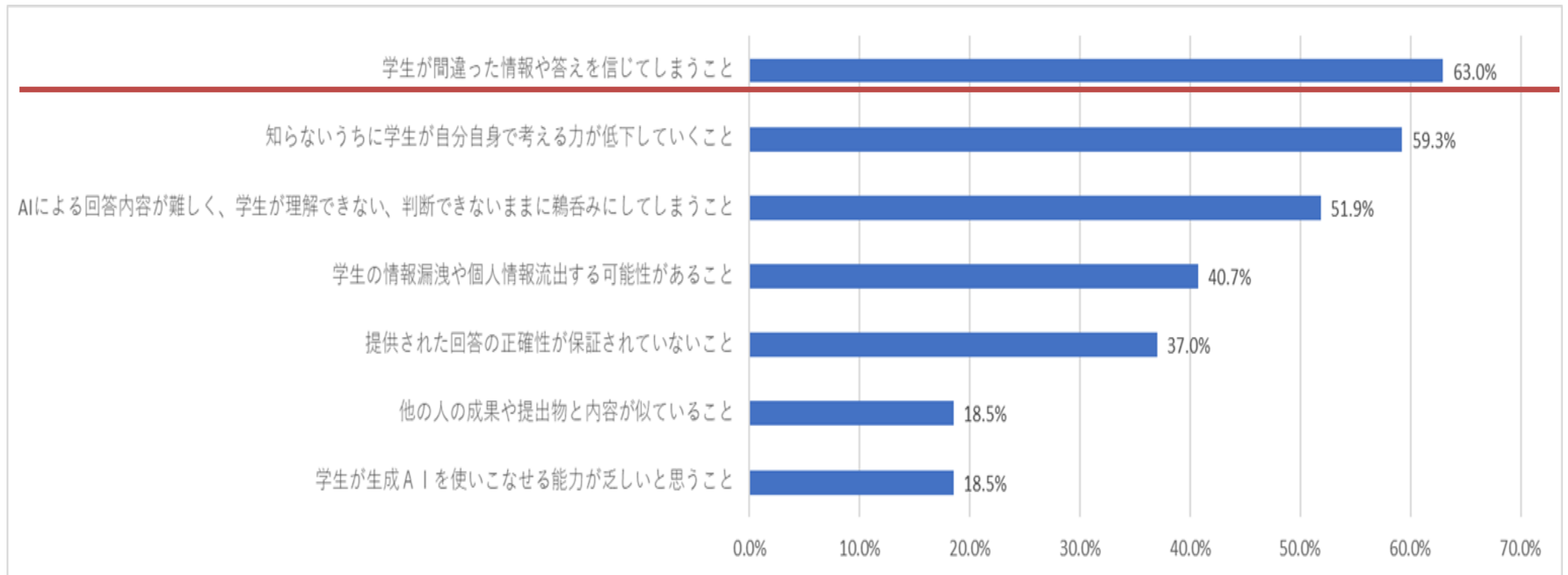
D・・・(data、データ収集)

A・・・(analysis、分析)

C・・・(conclusion、結論)

学生が生成AIを利用することに関して不安に感じるものとして該当するものは何ですか？（複数回答可 上位3つまで選んでください）

1位 学生が間違った情報や答えを信じてしまうこと



上記回答に関連して、具体的にどのような場合に不安を感じたかをお教えてください。（任意、自由記述）



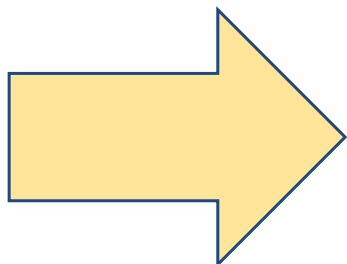
学生がAIによる情報収集をした際、参考文献の原本にあらずに要約だけ利用したときに、**存在しない参考文献があった**こと。(理系・工学)



自分で考えればよい、というところを忘れてしまうのではないか。(理系・自然科学)



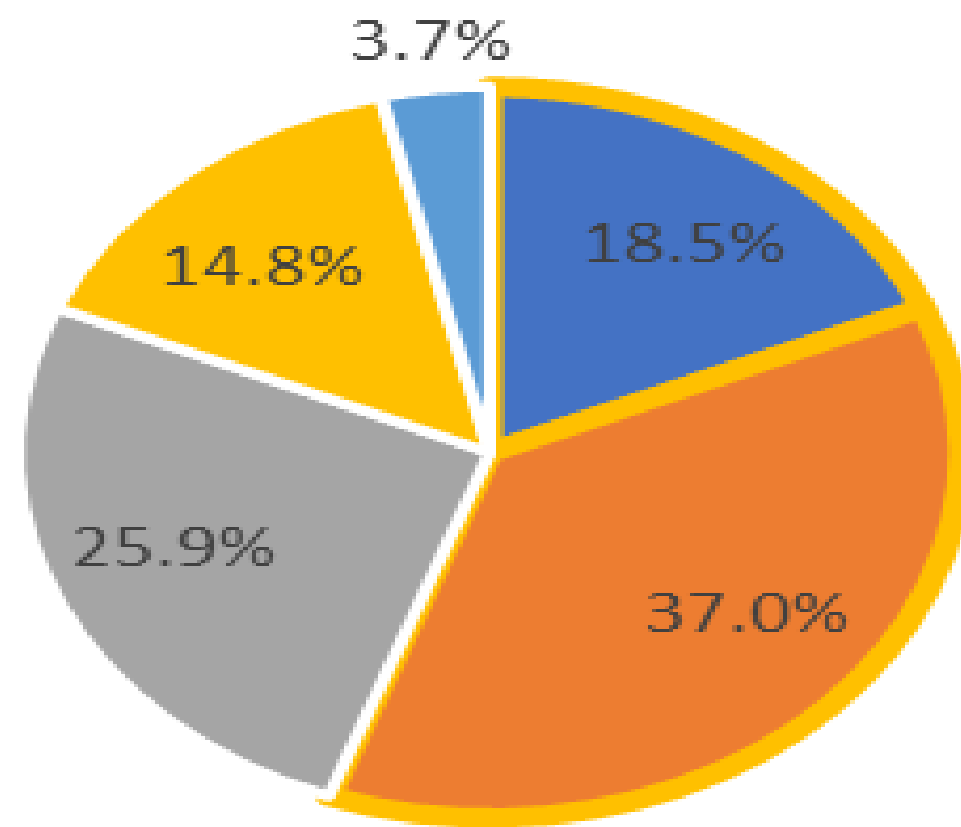
ゼミの学生においては、英文論文を「読んだ」と聞くと、AIに訳させ、要約させ、それを読んで、読んだつもりになって、内容を理解していないことが多い。(理系・自然科学)



ハルシネーション

自己の学習機会の喪失、自己能力向上に結び付かない使い方

大学生と教員の間で、生成AIの利用に対する考え方にギャップがあると感じたことがありますか？



ある
56.56%

■ かなりそのように感じる
■ 時々ある

■ どちらともいえない
■ あまり感じない
■ まったくくない

学生と教員のギャップについて 上記の回答をされた理由や具体的な場面や理由があれば教えてください。（自由記述）



企業調査で同業他社を比較する際、比較する企業を生成AIで選んでいた。ただ、生成AIに企業選定を指示するための基準（従業員数、売り上げ等）に理由が乏しいため、比較によって何を明らかにしたいのか不明瞭であった。学生は生成AIに指示を出して比較対象を見つけることができ、企業比較ができたと思っているが、教員からすると意味のない比較に留まっており、生成AIを使えたと思っている学生と、使いこなせていないと思う教員との間にギャップがあるように思われる。（理系・農学）

学生と教員のギャップについて 上記の回答をされた理由や具体的な場面や理由があれば教えてください。（自由記述）



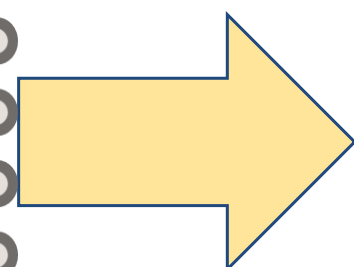
学生は楽をするツールと捉えているが、**その姿勢も出力内容に反映される**ことを認識していない(文理融合・総合系・学際系)



レポート課題などでの利用に留まっているようで、全面的に生成AIに依存している状況ではなさそうです。(文理融合・総合系・学際系)



学生はどんどん使っている。**教員は追いついていない人も多い**。(理系・自然科学)



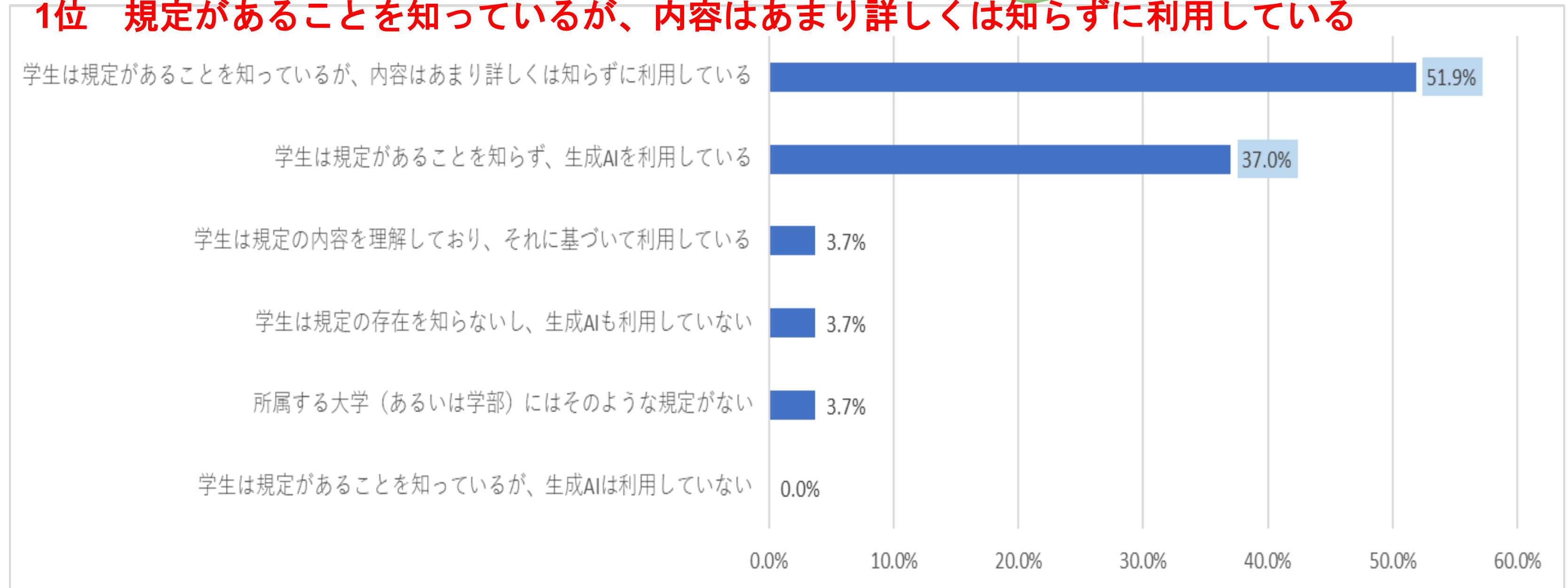
学生は使いこなせていると思っても、知識がある教員からすると全く使いこなせていないというギャップ

学生は生成AIをどんどん使っていると主張する教員もいれば、まだあまり使用していないと主張する教員もいるため、**教員内でも認識レベルの差がある？**

所属されている大学のAI利用に関する規定に対する学生の認知および利用状況に対するご自身の認識としては、どれが最もあてはまると思いますか？

学生は規定や規定の内容について知らない？

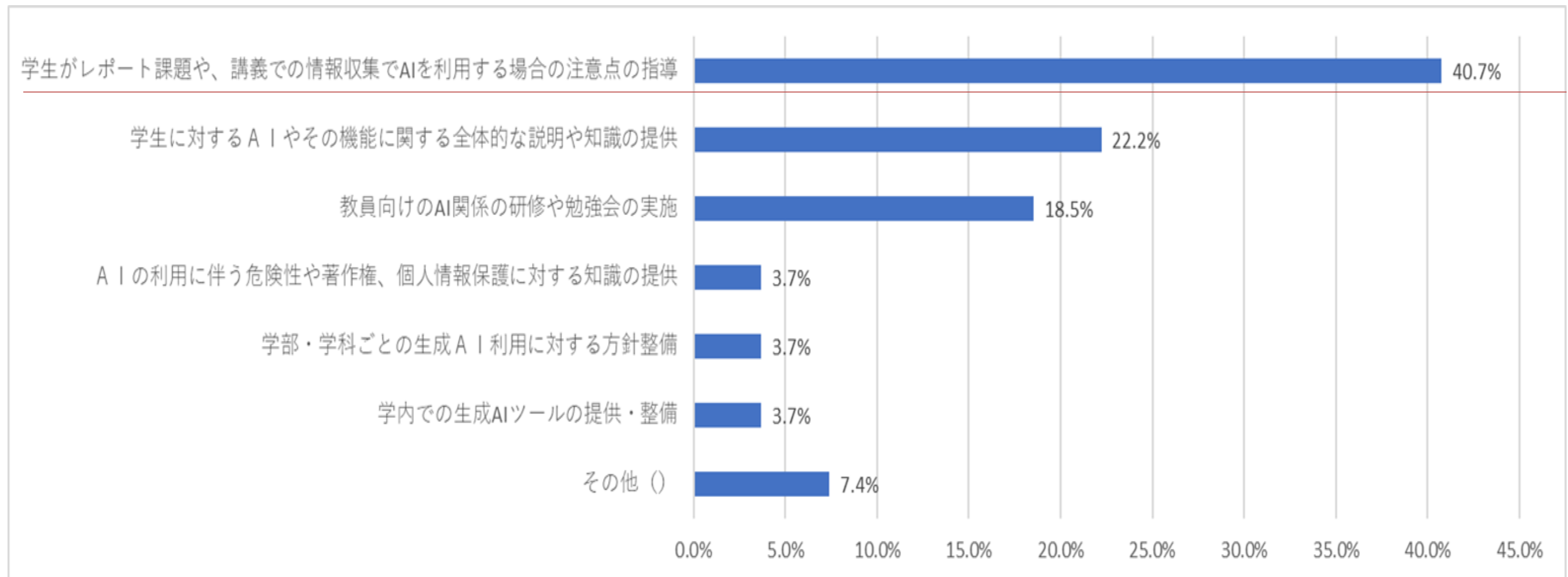
1位 規定があることを知っているが、内容はあまり詳しくは知らずに利用している



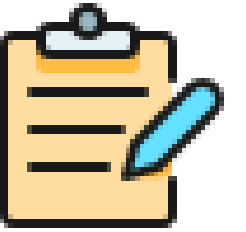
生成AIに関して、大学が行う対応としてこういったことが望ましいと考えますか？

N=27

1位 学生がレポート課題や講義での情報収集でAIを利用する場合の注意点の指導



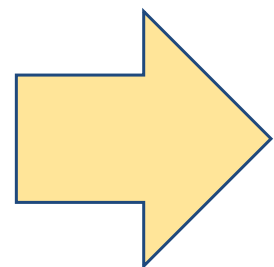
上記の選択肢以外でも大学にどのような対応を期待するかについてのご意見があればご記入ください。学生への期待でもかまいません。（任意、自由記述）



大学はウェブサイトで学生に対する注意喚起をしています。しかし、これを学生がどれほど閲覧しているかは不明です。**ウェブサイトで情報発信したら責任を果たせたと判断しないことが肝要**で、教員が大学の方針を共有し、講義などで繰り返し注意喚起を図るようにするといいかもかもしれません。(文系・総合系・学際系)

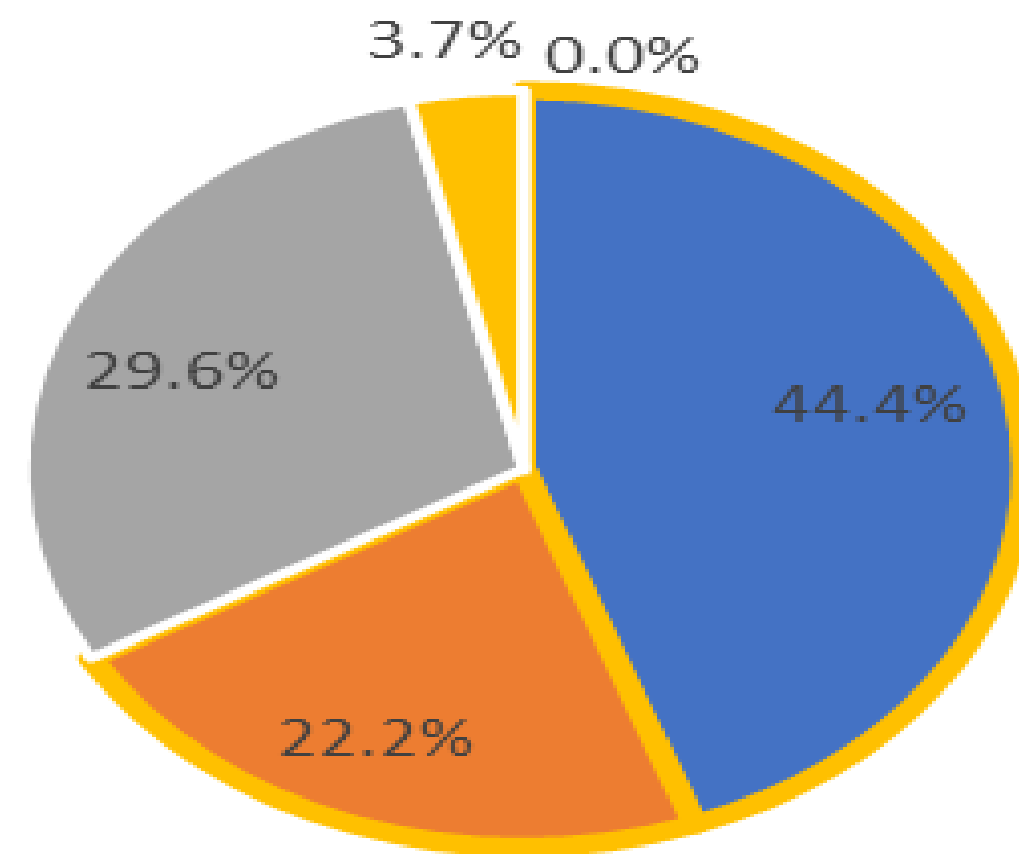


AIを学生が使うことが当たり前の時代なので、レポートでの評価が正当に機能している例を**大学側は教員に提示する**と良いのではないか。（とりあえず、これもAIに聞けば？とAIネイティブに言われそうだが）(理系・自然科学)



大学側からの教員や学生への発信が必要という意見が多数

今後、生成AIの開発や普及が進むことによって、大学教員の教育における役割の重要性はどのように変わっていくと思いますか？



役割の重要性は高まる

- 重要性がますます高まる
- 重要性がやや高まる
- 重要性は変わらない
- 重要性がやや低下する
- 重要性が著しく低下する

上記回答の理由や詳細をお教えてください。（任意、自由記述）



これまでもさまざまなツールが登場してきましたが、教員の教育上の重要性に変化はありませんでした。一方で、「講義」という言葉の意味を理解できない教員の場合は、元々大学教育において求められる役割を果たしていませんので、やはり変化はないことになります。（文系・総合系・学際系）

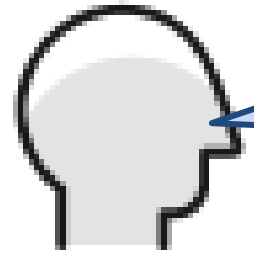


AIによってホワイトカラーの仕事が影響を受ける事例の1つになりますが、大学教員の意味が問われると思います。生成AIでもできてしまう講義は意味がなく、講義の質の変化が求められるという意味で「重要性がやや高まる」と思います。一方で、教員数は減らすことができてしまうように思います。（文理融合・総合系・学際系）

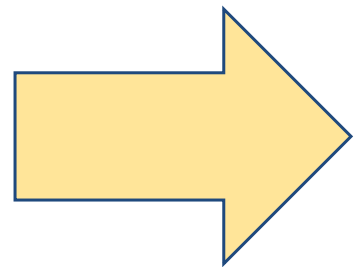
上記回答の理由や詳細をお教えてください。（任意、自由記述）



大学教員が教えるべき知識・技術等の中身は変化するかもしれないが、**人間（学生）にとって何が大切かを教えるのは、人間（教員）であることに変わりない。**(理系・その他)



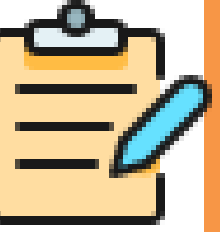
座学や知識を得るためだけの授業の需要は減り、フィールドでの実践的な教育、経験値の向上を期待できるような授業が重要になると思います。(文理融合・農学系)



知識を教えるだけの授業の需要は減り、人間にとって何が大切かを教えることや、経験値の向上を期待できる授業が重要になるという意見

これからの時代、人間が行う講義のあり方について考えていく必要がある？

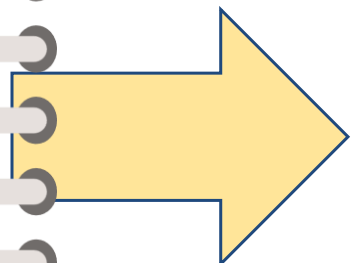
その他 大学生の生成AI活用に関して、疑問に思ったり、具体的に対応が
困ることがあれば、詳細をご記入ください。（任意、自由記述）



学生の質は、何につけても2:6:2の法則に（だいたい）従います。下2割の学生はどのような方策を講じても生成AIを正しく利用できないでしょう。ここを切り捨てていいかどうかは、大学の判断としては難しいところです(文系・総合系・学際系)

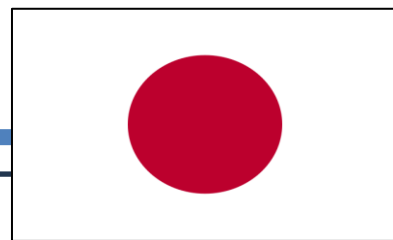


同じ大学・学部・学科でも教員によって生成AIの講義における活用に対する姿勢が異なることが学生の混乱を招くのではないかと危惧しています。(文理融合・社会科学)



教員と学生共にこれからのありかたに混乱している印象
大学や大学を統括する組織への期待

06 海外教員（メキシコ）インタビュー調査 大学教員の生成AI利用実態



教員アンケート

教員インタビュー

メキシコ人教員 インタビュー



2025年12月 実施

大学教員対象

教員インタビュー調査概要

対象：大学教員

調査方法：対面、オンライン

実施期間：2025年10月～11月

インタビュー内容：

A講義での生成 AI 利用状況

B 大学での規定、ルール

C 学生や大学での利用に対する意見

D 今後の展望・期待



教員インタビュー調査概要

ID	実施形態	性別	年代	文理	専門	授業での生成AIの利用
P1	対面	男性	50	理	数理情報、 応用数学	一部推奨している
P2	対面	男性	30	文理融合	社会科学系	推奨している
P3	対面	男性	20	文理融合	社会科学系	推奨しているに近い
P4	オンライン	男性	60	文	情報倫理	推奨している
P5	対面	男性	50	文理融合	社会科学系	強く推奨している
P6	オンライン	男性	40	文	経営学系	推奨も禁止もしていない
P7	対面	男性	50	文理融合	スポーツ科学	どちらでもない

メキシコ人教員インタビュー調査



学生や教員にとって、生成AIを利用するメリットや可能性はどのような点であると思いますか。それはなぜでしょうか。また、それをふまえて、今後、学生の生成AI活用が進む中で、教員として最も期待していることは何ですか。

「学生がAIを活用する利点として、個別化された学習と事務作業の効率化があると確信しています。

第一に、AIによって学生の個々のペースに合わせた指導や教材を提供し、複雑な主題の理解を深めることが出来ると考えます。

第二に、教師にとって、AIが機械的な作業から学生を解放し、深い考察、批判的思考、独創的なアイデアの創出により多くの時間を割けるようにすることが期待されます。この場合、AIは試験問題の原案作成、採点基準の作成、あるいは大量の研究論文の要約作成に役立つと考えます。

AIによって、私たちが単なる情報伝達者ではなく、専門家としてのメンターやガイドとして、より個別化された指導に再び注力できるようになることを願っています。」 (PM1)

(大学教員への調査結果)

- 大学が行う対応としては、ウェブサイトによる情報発信だけではなく、講義を通して、規定の存在を知らせたり、継続的にAI利用に関する指導や知識の提供を行うことが必要
- 生成AIに関するルールの大学による一元化を行うことによる問題発生時の責任の明確化 ⇔ しかし一元化を求めている教員も
- 生成AIの教育効果は、授業形態や指導（利用）方法に依存
→ 特にゼミのような少人数授業やインタラクティブな指導が可能な学習環境では、AIが学生の思考深化を支援するツールとして有効

情報セキュリティ、リスクマネジメント教育の必要性

- AIチェッカーは技術的な安心感？ 教育的な解決策にはならない
→ どのように評価・指導の中でAI活用を前提に設計するかが重要

07 全体のまとめと考察・提案

- ・ 学生

- ・ 回答学生のほとんどが生成AI（主にChatGPT）を利用
- ・ 利便性：資料作成や情報収集の効率化や個別学習
- ・ 不安：誤情報を信じてしまうことや自分の能力低下

- ・ 日本人学生の特徴

生成AIを有効に活用する場面の適切性に関する判断力と過度な使用によって自身の能力が低下することへの懸念が全体的に弱い傾向

- ・ 大学教員

学生にとっての利便性や不安についてもほぼ同様の認識

海外の教員と日本の教員でも回答に共通点

学生がAIを利用する上で、クリティカルシンキングや論理的な思考を訓練する必要性を認識

07 提案

- ・これからは生成AIの活用が当たり前の社会
学生側が自分のためにどういう使い方が好ましいかを考え、活用することが最も重要
- ・一方で、大学や教員からも適切な生成AIの使用に関する支援も必要
しかし現状は・・・
 - ・教員間で認識が異なっていることによる混乱
 - ・大学での厳密なルールの一元化の困難さ
 - ・学生はガイドラインの内容をほぼ知らない・・・→学生の自主的な判断や各教員の指示・指導に委ねられている側面が多い
だからこそ
 - ・生成AIを生産的に使えるようになるための、クリティカルシンキング・ロジカルシンキングの育成が必要
 - ・学生自身の思考力の向上、生成AIの利用に適した場面と不適な場面を見極める判断力の醸成

07 提案

提案①

授業における生成AIの活用事例の共有

提案②

時代に適応した評価方法の提示

提案③

生成AIに特化した専門別の新しい授業

References

書籍

- ・ 株式会社日立製作所. (2024). 『実践生成AIの教科書』 リックテレコム.
- ・ 日経ビッグデータ. (2017). 『グーグルに学ぶディープラーニング』 日経BP.
- ・ 野口悠紀. (2024). 『ChatGPT「超」勉強法』 プレジデント社.

論文

- ・ Bender, E.M., et al. (2021). On the dangers of stochastic parrots: Can language models be too big? Proceedings of the 2021 ACM conference on fairness, accountability, and transparency. 参照先: <https://dl.acm.org/doi/pdf/10.1145/3442188.3445922>
- ・ Kraprayoon, J. (2025). AI Agent Governance: A Field Guide. 参照先: https://static1.squarespace.com/static/64edf8e7f2b10d716b5ba0e1/t/6801438c58c2692374995db0/1744913293841/Agent+Governance_+A+Field+Guide.pdf
- ・ 遠藤大二、金井彩香. (2024). 生成 AI 時代に主体的学びを実現する設問自動生成とレポート評価方法の開発. 『酪農学園大学紀要. 人文・社会科学編』 48(2) pp.49-58 参照先: <https://rakuno.repo.nii.ac.jp/records/2000092>
- ・ 小林直人、永井勅久、木村映善. (2024). 学生のレポート作成に生成AIを使わせてみた件. 『医学教育』 55(1) pp.44-45 参照先: https://www.jstage.jst.go.jp/article/mededjapan/55/1/55_44/_article/-char/ja/
- ・ 斎藤渉. (2024). 「学生の生成AI利用とその利用目的に関する一考察 学生意識調査の結果から」 『大学情報・機関調査研究集会論文集』 13 . pp.119-125. 参照先: https://www.jstage.jst.go.jp/article/mjir/13/0/13_119_1/_pdf/-char/ja
- ・ 齋藤長行、橋本智明、山口恭正、内野秀哲. (2025). 学生と教員の生成AIの教育利用状況と意識に関する全国調査. 『メディア情報科学研究』 3(1) pp.29-52 参照先: <https://sendai-u.repo.nii.ac.jp/records/2000318>
- ・ 島井哲志. (2023). 大学生の生成 AI 利用 ―2023 年 4 月の心理科学科生の実態―. 『関西福祉科学大学紀要』 (27) pp.1-7 参照先: <https://fuksi-kagk-u.repo.nii.ac.jp/record/2000001/files/kagk20233673.pdf>
- ・ 田中希穂、田口聡志. (2024). 生成AIに対する大学生の認知. 『同志社教師教育研究』 第2号, pp.1-11.
- ・ 野平知良、三苫博、増渕伸一. (2023). 教員は生成AIで作成した文章を見破れるか. 『医学教育』 54.4. pp.416-417 参照先: https://www.jstage.jst.go.jp/article/mededjapan/54/4/54_416/_pdf/-char/ja
- ・ 藤村祐一. (2023). 生成AIの教育利用に関する研究ー生成AIの機能比較と教員の生成AI利用意向調査を通してー. 『日本教育工学学会研究報告書』 2号. pp.75-82 参照先: https://doi.org/10.15077/jsetstudy.2023.2_75
- ・ 真木大輔、三棟優子、高橋祐貴、目崎美香、向平和、大西義浩. (2024). 中学校現場での授業実践を通じた生成AIの教育的活用に関する研究. 『科学教育研究センター紀要』 3 pp.85-100 参照先: <https://ed.ehime-u.ac.jp/CRESE/wp-content/uploads/2024/03/Vol.3-No.12.pdf>
- ・ 森祥寛 .(2023). 大学1年生の生成AI利活用に関するアンケート報告. 『JSiSE Research Report』 Vol.38 No.2 pp.51-56 参照先: <https://www.jsise.org/society/committee/2023/2nd/TR-038-02-2-1-3.pdf>
- ・ 山口恭正. (2023). 大学生の初年度教育におけるAI活用実践と探索的意識調査に関する報告. 『IEICE Conferences Archives. The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers』 FIT2023（第 22 回情報科学技術フォーラム） pp.85-88 参照先: https://www.ieice.org/publications/conferences/bin/pdf_link.php?fname=CN-001.pdf&year=2023&ConfCd=F&id=FIT0000016285&lang=J

ウェブ資料

- ・ 伊藤貴之. (2024). 生成AIの回答内容の修正を課題としたレポートについて. お茶の水女子大学「授業・研究における生成系AIの活用事例」での講演資料.参照日: 2026年2月1日, 参照先: <https://www.slideshare.net/slideshow/ai-ai-7875/267776458>
- ・ 一般財団法人データサイエンティスト協会. (2025). 大学生向け「データサイエンティスト」に関する調査結果を発表. 参照日: 2025年7月2日, 参照先: <https://www.datascientist.or.jp/news/n-pressrelease/post-3976/>
- ・ 愛媛大学. (2023). 愛媛大学における生成AIの利活用に関する基本的考え方 参照日: 2025年10月8日, 参照先: https://www.ehime-u.ac.jp/tp_20230607_gak/
- ・ 大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部. (n.d.). 授業における生成AIの活用法 生成AIによる授業づくり支援. 参照日: 2025年10月2日, 参照先: https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/support_al.html
- ・ 全国大学生生活協同組合連合会. (2025). 第 60 回学生生活実態調査概要報告. 参照日: 2025年10月2日, 参照先: https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf_report60.pdf
- ・ 総務省. (2025). 自治体における生成AI導入状況. 参照日: 2025年7月2日, 参照先: https://www.soumu.go.jp/main_content/001018084.pdf
- ・ 総務省 情報流通行政局 情報流通振興課. (n.d.). 生成AI はじめの一步 ver.1.0. 参照日: 2025年10月1日, 参照先: https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/generativeai/
- ・ マイナビ. (2025). マイナビ 2026年卒 大学生キャリア意向調査4月<就職活動におけるAI利用について>を発表. 参照日: 2025年5月26日, 参照先: https://www.mynavi.jp/news/2025/05/post_49027.html
- ・ 北海道大学高等教育研修センター. (2023). 生成系AI利用状況についてのアンケートを実施(2023-7-20). 参照日: 2025年7月4日, 参照先: <https://ctl.high.hokudai.ac.jp/centers-note/2456/>
- ・ リクルート. (2024). よのなか調査(生活者編)2023 調査報告書 ～テクノロジー・情報に対する考え方・行動編～. 参照日: 2025年7月2日, 参照先: https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/assets/20240326_rd_02.pdf

ご清聴ありがとうございました



調査にご協力くださったすべての
皆様に深く感謝の意を表します。
本当にありがとうございました。

